一般社団法人
スポーツコーチングJapan

報告書

一般社団法人スポーツコーチングJapan

スポーツコーチングJapanについて

1. 設立経緯
“From & To” Sports Coaching、日本全体のマネジメント層の能力向上をスポーツ界のコーチングから牽引する。という想いの下、弊団体を設立いたしました。
スポーツはこの世で最もシンプルであり、日々の練習や試合での瞬間毎での勝負により常に成長を遂げています。スポーツコーチ達は日々新しい指導方法やマネジメント方法を試行錯誤しています。
我々スポーツコーチングJapanは指導者の日常における指導力向上はもちろん、スポーツコーチング界から日本のマネジメント層を牽引していく未来を実現します。

2. 団体のビジョン
“Good Coach to Great Coach”という団体の理念の下、スポーツコーチの質的向上を目的とし、Great Coachを育成する仕組み作りのリーディングオーガニゼーションを目指します。

＜スポーツコーチングJapanが目指す姿＞
①日本のスポーツコーチングの進化、発展
②スポーツから企業・団体等の組織体も共通する不変のメソッドとしてコーチの育成の普及・質向上へ寄与する。

カンファレンスについて

1. 活動内容

2018年3月3日（土） スポーツコーチングJapan Conference 2018

2. 実施概要

日　時：2018年3月3日（日）10:00-18:00（懇親会 18:30-20:00）
会　場：富士通株式会社 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター 24階
参加者：148人
参加費：5,000円（一般）
3,000円（学生）
※懇親会費　1,000円
主　催：一般社団法人スポーツコーチングJapan
協　力：NPO法人スポーツコーチング・イニシアチブ
株式会社スポコン
NPO法人Shape the Dream
富士通株式会社

3. コンセプト

Good Coach to Great Coach

4. 特徴

◆現在のスポーツコーチングの潮流に触れる
最先端で活躍するプロフェッショナルが登壇し、質の高い意見を交わし合い、互いに触発する場となります。

◆自らのコーチングの進化を体感する
コーチングを「持ち寄り」「ゆさぶり」「進化させる」体験をconferenceを通して提供します。明日からのアクションにつながるヒントやアイデアに触れることができます。

◆幅広い指導者ネットワークの形成
分野を超えた日本の指導者が一堂に会します。その場限りではなく、今後もつながり高め合える同志に出会えます。

活動実績

5. 情報

◆登壇者一覧

岡島 悦子氏
株式会社プロノバ
代表取締役社長

高濱 正伸氏
花まる学習会代表
NPO法人子育て応援隊
むぎぐみ理事長

中竹 竜二氏
一般社団法人
スポーツコーチングJapan
代表理事

伊藤 雅充氏
日本体育大学体育学部
体育学科教授

白木 栄次氏
NPO法人
Shape the Dream
代表理事

相馬 浩隆氏
公益財団法人
日本オリンピック委員会
JOC国際人養成アカデミーディレクター

石尾 潤氏
NPO法人スポーツカントリーアンビスタ代表

荒川 優氏
株式会社スポーツクラウド
代表取締役社長

関口 遵氏
日本体育大学体育学部(コーチ学)
助教
オーストラリアンフットボールクラブ
R246ライオンズ代表

新生 剛士氏
「QB道場」道場長
「声トレ塾」代表

三阪 洋行氏
ウィルチェアラグビー
元日本代表
現日本代表アシスタントコーチ

神武 直彦氏
慶應義塾大学システム
デザイン・マネジメント
研究科 准教授

千葉 洋平氏
日本スポーツアナリスト
協会理事
フェンシング男子日本代表
アナリスト

活動実績

6. スケジュール

タイトル	登壇者名	役職	登壇時間	入り時間	出発時間
「指導者に求められるリーダーシップ」	高濱 正伸	花まる学習会代表 / NPO法人子育て応援隊むぎぐみ理事長	10:30-11:30	10:00	-
	岡島 悦子	株式会社プロノバ代表取締役社長		10:00	13:00
	中竹 竜二	SCJ 代表理事		9:00	20:30
「新しい時代のリーダーシップ」	岡島 悦子	株式会社プロノバ代表取締役社長	11:45-12:45	10:00	13:00
「パラスポーツの魅力と可能性」	三阪 洋行	ウィルチェアラグビー元日本代表 / 現日本代表アシスタントコーチ)		9:00	13:00
	中竹 竜二	SCJ 代表理事		9:00	13:00
「スポーツ指導だからできる、メシが食える大人の育て方」	高濱 正伸	花まる学習会代表 / NPO法人子育て応援隊むぎぐみ理事長		10:00	-
「アスリート・センタード・コーチング」	伊藤 雅充	日本体育大学体育学部体育学科教授	14:10-15:30	-	-
プロ指導者と地域密着型NPO指導者が語るスポーツコーチング ～子どもたちとの関わりの「期間」と「密度」に焦点をあてて～	荒川 優	株式会社スポーツクラウド代表取締役社長		13:30	16:00
	石尾 潤	NPO法人スポーツカントリーアンビスタ代表		10:00	17:00
「アスリートのキャリアを考える」～競技コーチから生涯コーチへ～	白木 栄治	NPO法人 Shape the Dream代表理事		-	-
「たかがスポーツ、されどスポーツ」	新生 剛士	QB道場」道場長 / 「声トレ塾」代表	15:45-17:05	10:00	要確認
	神武 直彦	慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科 准教授、 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンスセンター・ ハイパフォーマンス戦略部アドバイザー		12:00（目安）	17:30
「コーチの成長と社会におけるスポーツの価値」	柳馬 浩隆	公益財団法人日本オリンピック委員会 / JOC国際人養成アカデミーディレクター		10:00	20:00
	関口 遵	日本体育大学体育学部（コーチ学）助教 / オーストラリアンフットボールクラブR246ライオンズ代表		10:00	20:00
トップスポーツにおけるデータ活用 ～フェンシングナショナルチームのアナリスト事例～	千葉 洋平	一般社団法人日本スポーツアナリスト協会　理事		15:00	20:00

活動実績

時刻	内容		
9:30	開場		
10:00	オープニング　中竹竜二氏		
10:30	基調講演 高瀬正伸氏・岡島悦子氏・中竹竜二氏 「指導者に求められるリーダーシップ」		
11:30	移動		
11:45	分科会①-A 岡島悦子氏 「新しい時代のリーダーシップ」	分科会①-B 三浦洋行氏 「パラスポーツの魅力と可能性」	分科会①-C 高瀬正伸氏 「スポーツ指導だからできる、メシが食える大人の育て方」
12:45	ランチブレイク		
14:10	分科会②-A 伊藤雅充氏 「アスリート・センタード・コーチング」	分科会②-B 石尾岳氏・荒川優氏 「プロ指導者と地域密着型NPO指導者が語るスポーツコーチング」 ～子どもたちとの関わりの「期間」と「密度」に焦点をあてて～	分科会②-C 白木栄治氏 「アスリートのキャリアを考える」 ～競技コーチから生涯コーチへ～
15:30	休憩		
15:45	分科会③-A 新生剛士氏・神武直彦氏・小林忠広氏 「たかがスポーツ、されどスポーツ」	分科会③-B 相馬浩隆氏・関口遵氏 「コーチの成長と社会におけるスポーツの価値」	分科会③-C 千葉洋平氏 「トップスポーツにおけるデータ活用」 ～フェンシングナショナルチームのアナリスト事例～
17:05	休憩		
17:20	振り返り会　中竹竜二氏		
17:55	クロージング　中竹竜二氏		
18:00	閉会		

7. 登壇内容

◆基調講演
<タイトル>
「指導者に求められるリーダーシップ」

<登壇者>
高濱正伸氏、岡島悦子氏、中竹竜二氏

<内容>
「リーダーの在り方・育て方」というテーマでは、岡島氏がVUCA時代と呼ばれる先の読めない時代における組織のリーダーの役割が変化していると指摘。高濱氏からは、教育の本質である「人の動かし方」をスポーツコーチが学んでいないという問題提起がなされ、「教える人をどう育てるか」というテーマでは、中竹氏からは、「スポーツの本質的な楽しさを追求する」というラグビー界のコーチ育成の最新のトレンドであるがシェアされた。

活動実績

◆分科会①-A
<タイトル>
「新しい時代のリーダーシップ」

<登壇者>
岡島悦子氏

<内容>
「新しい時代のリーダーシップ」というテーマでお話頂きました。岡島さんのご専門である「リーダーシップ×イノベーション開発」という視点から、これからの時代に求められるリーダーシップのあり方を考えた。
ビジネス領域に比べ、勝敗や結果のわかりやすいスポーツ分野では、どんなリーダーが成果を出せるかについて科学的な仮説検証が行いやすく、スポーツ分野で明らかになったことを他分野に応用するということも往々にしてできると岡島さんは語る。
「新しい時代のリーダー」のあり方を考える貴重な機会であったと同時に、ビジネス領域から見てスポーツの可能性を感じるセッションだった。

◆分科会①-B
<タイトル>
「パラスポーツの魅力と可能性」

<登壇者>
三阪洋行氏、中竹竜二氏

<内容>
登壇者お二人のそれぞれの視点から、パラスポーツの秘めた可能性についてお話をいただいた。突然訪れた体の不自由を救ったのは、ウィルチェアーラグビーであったと三阪さんは語る。
パラスポーツの環境は年々改善され、スポーツのプロフェッショナルとして仕事ができる状態になってきたとはいえ、まだまだ組織として成り立っていないというリアルな声もあった。
2020年オリンピック・パラリンピック、そしてその先を見据えて、健常者と障がい者が互いに手を取り合い、知恵を出し合うことが必要なのではないかと感じた。

活動実績

◆分科会①-C
<タイトル>
「スポーツ指導だからできる、メシが食える大人の育て方」

<登壇者>
高濱正伸氏

<内容>
花まる学習会代表高濱氏が教育におけるスポーツ指導の重要性について語った。
本当に頭の良い子供（地頭の良い子供）には「見える力」と「詰める力」が備わっているという。
それぞれ物事の本質を見抜く力、そして、論理を詰める力という意味である。そして、スポーツは教育の現場には欠かせないという。スポーツには想像と工夫、緊張感が満ち溢れている。スポーツに熱中して取り組むことは脳を最も発達させ、この2つの能力を向上させると高濱氏はいう。
そして、スポーツを含め、何かにとことん集中して取り組む経験を子供の頃に積んでおくことが、後の人生で成長を続けていくためには特に重要であるとも語った。

◆分科会②-A
<タイトル>
「アスリート・センタード・コーチング」

<登壇者>
伊藤雅充氏

<内容>
「コーチが変われば環境が変わり環境が変われば選手が変わる。」
そもそもアスリート自身が競技を楽しみ、自分の欲求を満足させながらやっていかなければパフォーマンスは上がりません。アスリートの主体性を引き出すために指導者はどうあるべきなのかについて、当日はワークショップも交えながら考えた。
参加者の中には現場で実際に指導に当たっている人も多く、ワークショップでは、相互に自らの経験を踏まえた意見交換が行われた。
アスリートの成長を願うのであれば、まずは自分自身が成長しなければならない。参加者ひとりひとりが、自分達が目指すべきコーチングのあり方について考える貴重な機会になったと感じた。

◆分科会②-B
<タイトル>
「プロ指導者と地域密着型NPO指導者が語るスポーツコーチング」
～子どもたちとの関わりの「期間」と「密度」に焦点をあてて～

<登壇者>
石尾潤氏、荒川優氏

<内容>
石尾さんは3年間という長いスパン、荒川さんは最短で1日で完結するという、指導のスパンという観点では正反対のお二人。しかし、「長期的な視点で選手の育成を考える」というところは共通していると感じた。スポーツを仕事にするというテーマでは、スポーツを仕事にすることでスポーツの「価値」を広めていく、という思いが感じられるセッションとなった。

◆分科会②-C
<タイトル>
「アスリートのキャリアを考える」
～競技コーチから生涯コーチへ～

<登壇者>
白木栄治氏

<内容>
NPO法人Shape the Dream代表理事を務める白木栄次氏が現在の学生スポーツ界の課題と取り組んでいる活動について語った。自身がアメフトの第一線から退いた時の危機感からこの団体を立ち上げたという。
実際に行ったアンケートを見ても、約4割の学生アスリートが将来について不安を感じていた。Shape the Dreamが行う学生向けのワークショップは「共に作り上げる」という意味を込めて「Shape」と名付けられ、学生に将来のキャリアを考える最初の一歩を踏み出してもらうことを目的に行われている。本分科会の中で参加者は実際に「Shape」の一部を体験し、学生に彼らの人生について考えてもらう手法や、自分や他人の価値観を深掘りする楽しさを学んだ様子であった。

◆分科会③-A
<タイトル>
「たかがスポーツ、されどスポーツ」

<登壇者>
新生剛士氏、神武直彦氏、小林忠広氏

<内容>
アスリートの価値、そしてその価値をどのようにして作っていくかという点が最大のテーマになった。その中で神武氏、新生氏ともに教育の重要性について語った。
真に優れたアスリートは人間性や自力で思考する能力が非常に高く、その能力を高めるような教育をしていくべきだと。
しかし現状、スポーツ界は閉鎖的で盲目的。とにかく勝利に集中させる為にトップダウンで情報のシャットアウトや詰め込み型の教育が行われている。まずはこのような環境を作ってしまっているコーチや監督側からしっかりと教育していく必要性を感じた。

◆分科会③-B
<タイトル>
「コーチの成長と社会におけるスポーツの価値」

<登壇者>
相馬浩隆氏・関口遵氏

<内容>
日本の社会の中ではスポーツの価値が認められにくいという課題や、コーチ自身が成長することの重要性についてお話いただいた。
最新の研究結果や現場でのご経験を基にしたお二方のお話、参加者同士で考え話し合ったワークを通して、スポーツには「競技力」という言葉に内包されない多くの価値があるという多くの気づきがあった。
関口さんが「スポーツは人類の進化のための手段の１つになりうるのではないか」と言うように、人間成長におけるスポーツの力は非常に大きいものだとあらためて感じられたセッションとなった。

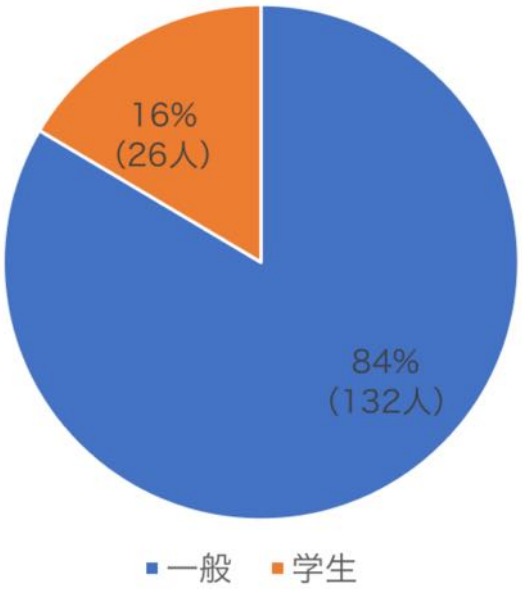
◆分科会③-C
<タイトル>
「トップスポーツにおけるデータ活用」
～フェンシングナショナルチームのアナリスト事例～

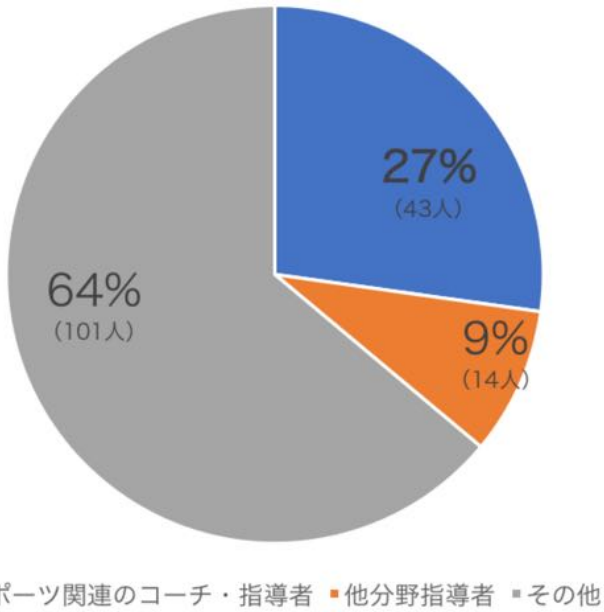
<登壇者>
千葉洋平氏

<内容>
千葉洋平氏は普段は日本スポーツアナリスト協会理事・ファンシング男子日本代表アナリストを務めており、本分科会ではスポーツアナリストの仕事やその意義について具体事例を交えながら説明した。
スポーツのプレー中にも人間は先入観や予測によって簡単にミスを犯してしまう。しかし、適切な情報が適切な形でプレイヤーに届けば、彼らは「思い込み」に気付き、ミスを減らせると千葉氏は言う。そのためにスポーツアナリストはデータを収集、分析することで結果を「見える化」し、アスリートに適切に伝達することにひたすら注力する。
最後にはデータ分析が日本代表選手の勝利を導いた事例紹介も行われ、データからスポーツの中身を紐解いていくという、スポーツを楽しむ新たな視点を学べる分科会であった。

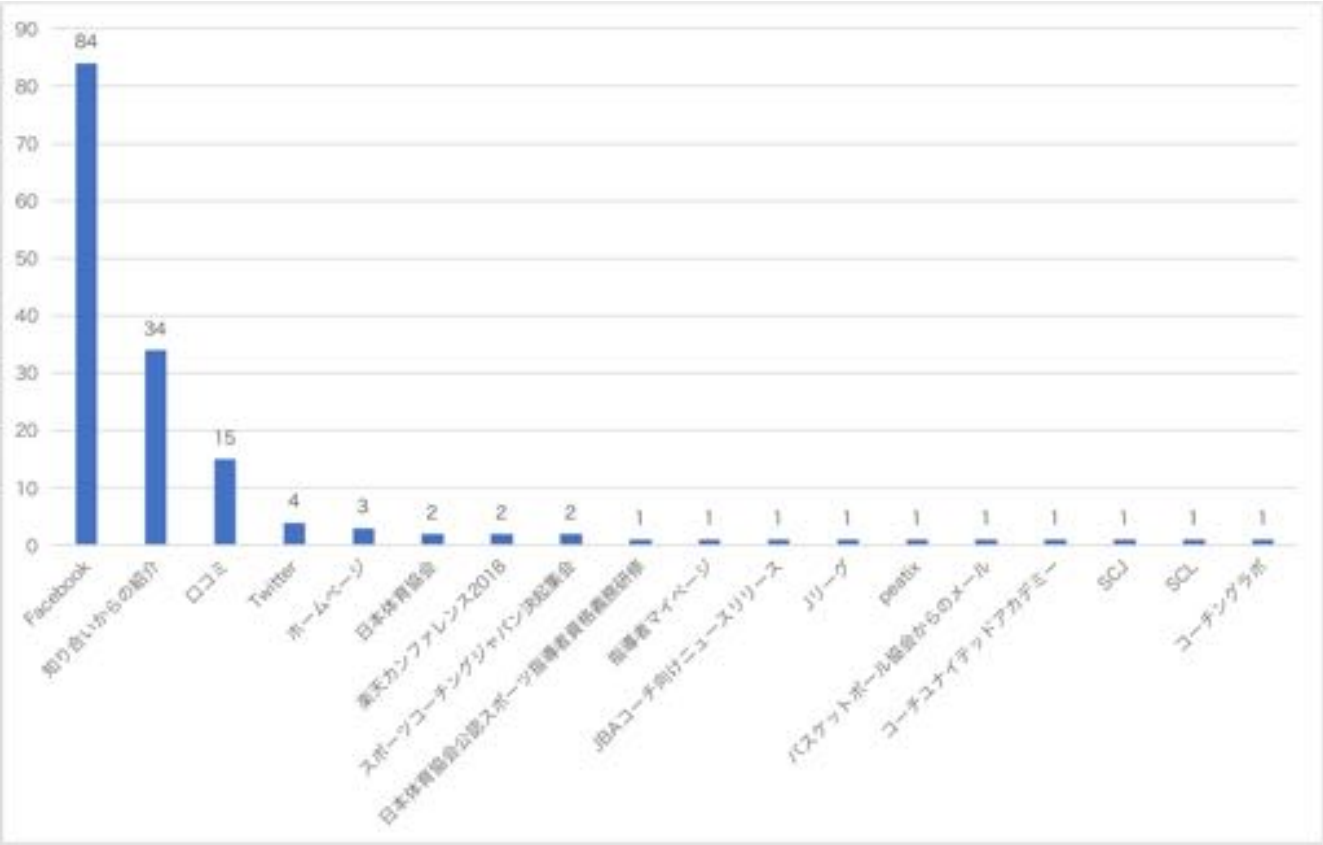
参加者情報

1. 参加者属性



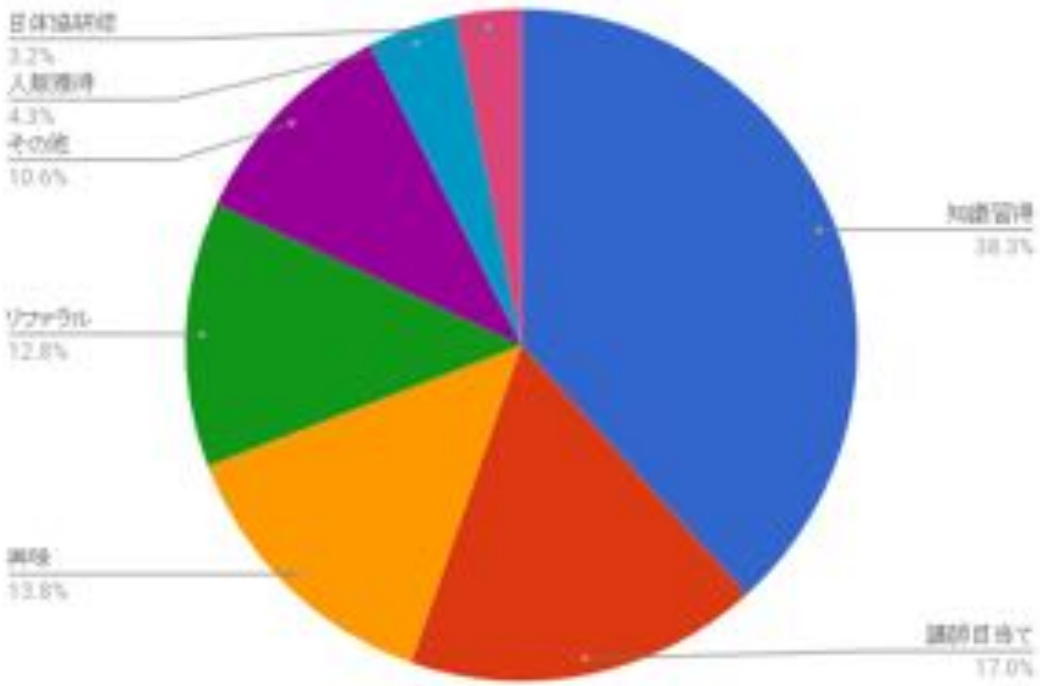


2. どうやってイベントを知ったか

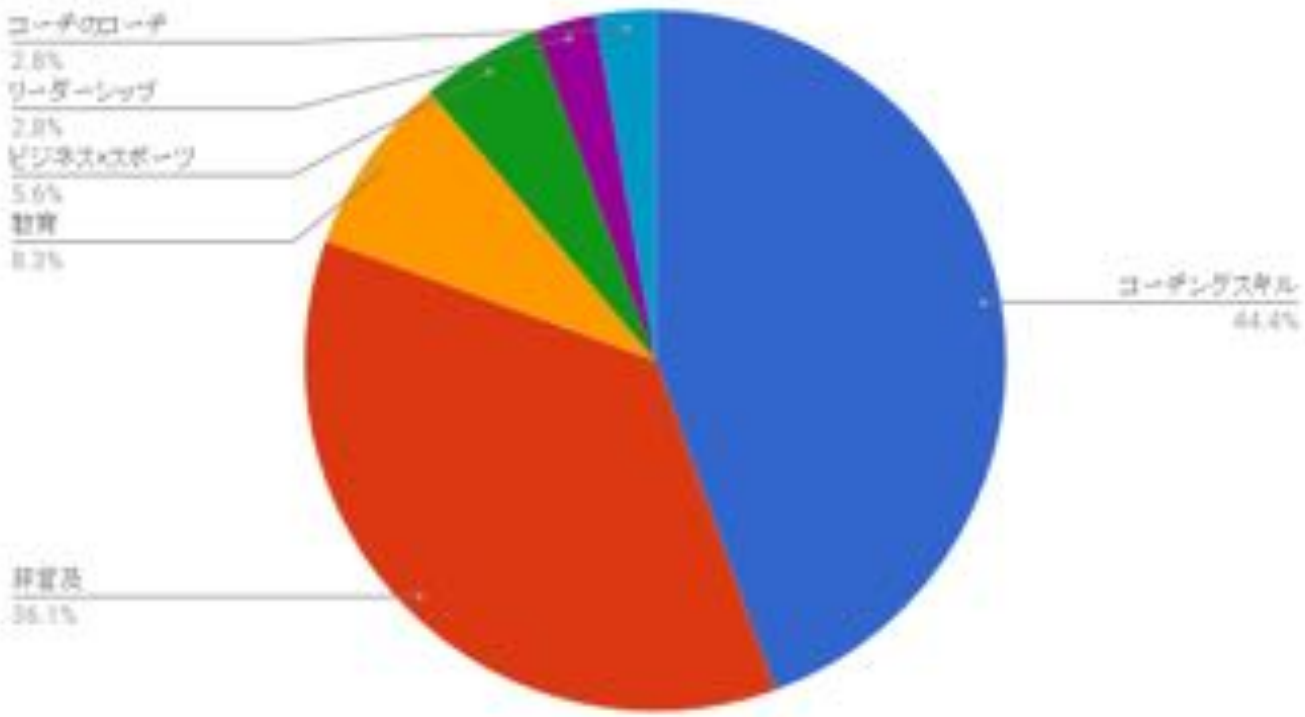


参加者情報

3. 何に興味をもって参加したか

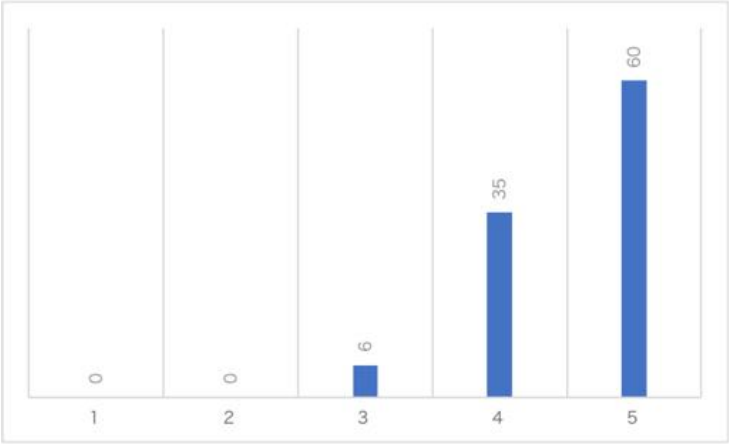


4. 習得したい知識



参加者からの反応

1. 全体について
(1)全体の満足度



満足度平均値

4.54

(2)全体の満足度の理由

様々なスポーツコーチングに経験や見解を持った講演者のお話が聞ける機会として貴重、同じ時間帯に複数の講演があるため選択肢があり興味と一致した選択ができた、随所に受講者の交流のための工夫があった。

分科会のテーマが興味深いものだったから。又、来場者のバックグラウンドが多岐にわたっていたから。

たくさんの貴重な体験談やアドバイスを様々な業界で活動されている方から頂けたから。

スポーツコーチング業界の方々が一堂に会し、貴重な意見交換の時間となったから。

スポーツに限らず、ビジネスの最前線で活躍されている方から、最新の研究や学び方・考え方を拝聴できたため。

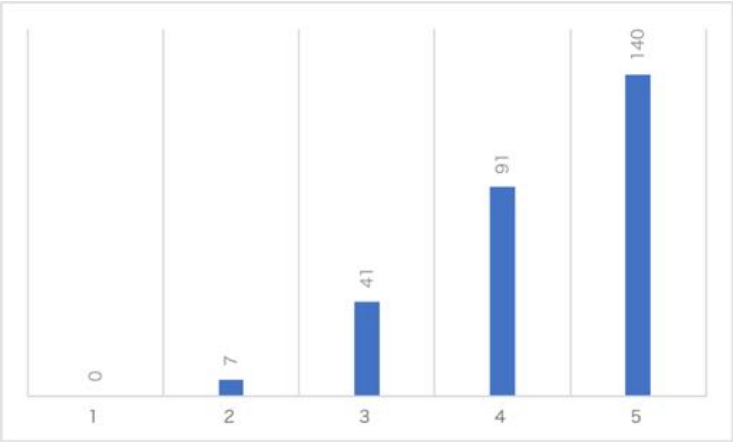
講師の数が多かっただけでなく参加者の多くの皆さんと双方向の話ができるような仕掛けもあり、結果的に大変多くの人の意見を聞くことができた。

対象世代と対象競技種目を超えて”コーチ”に興味のある人が集まったことは、これまでになかなか実現できていなかったので良かったと思います。

セッションの中身を含め、贅沢すぎるほどの内容であった。ここから何か始まりそうというワクワク感が半端なかった。

参加者からの反応

2. 分科会について
(1)分科会の満足度



満足度平均値

4.31

(2)分科会の満足度の理由

時代の変化、組織の適応、個人の柔軟性が今後より重要であることが認識できた。そして、今後の課題が見つかった。

主観的客観的な物事のとらえ方とそのための訓練やコミュニケーションの方法は子供に対しても大人に対しても本質は同じで、スポーツはそのための有効な手段であるという事を学べた。

新しい地平を切り拓くアスリート達の奮闘を肌で感じられた事、社会課題の解決にスポーツが果たせる役割を確認できた。

自分の中で当たり前すぎて意識していなかった価値観を表現することの重要性について気づかされた。

様々な職業の方とスポーツの価値について意見交換でき、考えが深まりました。

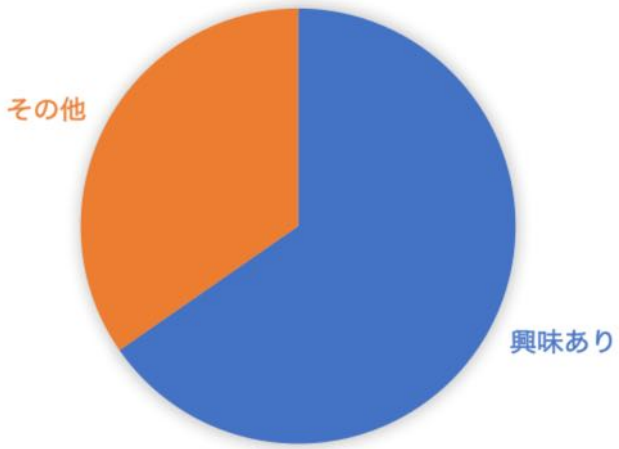
自分のコーチ哲学の中で順位が低かったものについて、なぜそうだったのかについての気づきが得られた。ビジネスとスポーツをもっと結び付けて研究することの価値や意味について再確認させられた。

スポーツを教える上で大事なことを教えてもらうことが出来たから。

半学半教など、人が主体的に成長していくには仕組み・環境作りなども大切なことが学べた。

参加者からの反応

5. 今後のSCJの運営への興味



6. 最大の学び

創造的な視点に立つこと。学び続けること。

コーチングとはテクニックではなくて、人としてのあり方だと感じました。

「スポーツが社会に貢献できる可能性の高さ」を、ワークショップを通じて再認識出来たこと。

多様な意見をお聞きすることで、まだまだ学びが必要だと改めて認識したこと。

コーチの器が選手の成長に与える影響がとても大きい事。その影響を自覚し、大人も共に学び合う姿勢と具体的な場をつくることが重要である事。

自分を客観的に見直す機会となり、コミュニケーションの大切さとその効果の大きさを学ぶことができた。

バッターボックスに立つものしか、成功を掴む可能性はない、ということ。挑戦し続けることが何よりも大切であり、その中で楽しむ。

コーチングはスポーツに限らず、どの分野でも活かせるソーシャルスキルであるということ。

SCJのような機関の必要性

メディア実績

1. メディア掲載

◆COACH UNITED
<タイトル>
日本のスポーツ指導者に必要なのは「正解が見つかる場所よりも、人の意見を聞いて自分の学びに変えられる場所」
<URL>
(https://coachunited.jp/column/000738.html)

◆NEWS PICKS
<タイトル>
【中竹竜二】勝つ組織のリーダーが「勝て」と命じない理由
<URL>
（https://newspicks.com/news/2835033/body/?ref=user_2928343）

◆GSL
<タイトル>
「ここから。日本のスポーツコーチングをNext Stageへ。」一般社団法人スポーツコーチングJapan代表理事　中竹竜二氏の取り組み
<URL>
（http://goldstandardlabo.com/blog/2018/02/12/post-3487/）

◆GSL
<タイトル>
「いろんな人と交わる、いろんな界隈を知る、いろんな気づきを得ることが根本的な学びのステップになる」一般社団法人スポーツコーチングJapan代表理事、中竹竜二氏インタビュー（後編）
<URL>
（http://goldstandardlabo.com/blog/2018/02/26/post-3508/）

今後の活動

1. 今後の活動

(1)コーチデベロッパーの育成
「コーチ育成者」を育成するプログラムを提供します。競技問わず、コーチを育成するためのメソッドは汎用性が高く、ビジネスの現場でも大いに応用可能です。今年度前半はトライアル実施を行い、来年度の本格展開に向けプログラムを構築します。理想として「1チームにつきコーチディベロッパーが1名いる状態」を掲げ、その普及に努めます。

(2) 組織開発
アスリート、コーチ、スタッフといった様々な役割が存在する中で、個人のリーダーシップ開発とその集合体である組織開発を軸としてプログラムを展開します。チーム内でのコミュニケーションやチームビルディングなど、競技問わず組織に潜在化・顕在化する課題を解決し、チーム力向上に貢献します。

(3)コミュニティ拡大
日本国内のスポーツ指導者をマーケットにコミュニティを形成し、互いに学び合う場や機会の提供を行います。活動報告やプロモーション、また学び・気づきの場としてのカンファレンスを定期的に開催し、共感と仲間を増やすことで活動の幅を拡大します。

また、他のスポーツ関係団体との連携・協力や支援関係を創り、使命をもった人々が「共創」することのできる基盤づくりを目指し、あらゆることにチャレンジします。